

平成22年度 第1回平田地域協議会 会議録（概要）

1. 日 時／平成22年4月23日（金）午後1時30分～午後4時30分

2. 場 所／酒田市平田総合支所 302号室

3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦）

・ 奥山仁委員・阿曾智子委員・小林悟委員・和根崎勘一委員・堀弥志男委員・
長谷部耕次委員・佐藤力委員・加藤勝子委員・菅原律子委員（副会長）
・・・計 9名

（2）2号委員（識見を有する者）

阿部敬子委員・後藤保喜委員・富樫文雄委員（会長）・・・計 3名

（3）3号委員（公募）

佐藤達也委員・富樫美雪委員・藤原幸雄委員・・・計 3名

（4）酒田市

平田総合支所 齋藤啓一支所長・石川忠春地域振興課長・
中條幸弥市民福祉課長・佐藤政好建設産業課長・
土田瑞穂地域振興課長補佐・
地域振興課 小松原毅地域振興主査兼地域振興係長
・・・計 6名

出席者合計21名

4. 次 第／（1）開会

・ （2）平田地域協議会 会長あいさつ

（3）平田総合支所 支所長あいさつ

（4）会議録署名委員の選任

（5）報告

①平成21年度 平田地域協議会活動状況 市長報告時の状況について

- ②平成22年度 平田地域に関連する市の予算について
- ③平成21年度 コミュニティ振興会の事業実施状況について
- ④その他

(6) 協議

- ①平成22年度 平田地域協議会の活動予定について
- ②その他

(7) 意見交換

- ①地域課題について

(8) その他

(9) 閉会

5. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

本日はお忙しい中ご参集いただき、全員の参加をみたことに対し、深く感謝申し上げます。

米の新品種「つや姫」について、平田地域では私も含め30名近くの農業者が作付している。全国ブランドに育てるべく、さらには海外へも販売すべく、開発した山形県や関係団体など県をあげての取り組みが展開されている。先日行われた懇談の席において、知事も大きな期待を寄せており、地域において私たちも努力していきたい。

3月から4月にかけて、コミュニティ振興会の総会が開催されている。各コミュニティ振興会の総会資料を見せてもらったが、これらを参考にしながら、地域課題の解消に向け、地域協議会委員の皆さんと一緒にがんばっていきたい。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶齋藤支所長

4月の異動により、2年ぶりにお世話になります。よろしくお願

たします。

春作業の真っ只中に入ろうとしている時期にもかかわらず、全員からご出席いただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。今年の天気には参っているところで、耕起の遅れが農作業全体の遅れにつながらないか心配であり、いち早い天候の回復を祈っている。

合併後5年目に入り、様々な面での一体化が深まりつつあり、各種制度についても一元化が図られている。その一つとして4月1日から、区長制度から自治会長制度へと全市で統一された。これを受け一昨日、昭和39年4月から続いてきた平田地域区長連絡協議会が解散され、同日新たに平田自治会長会が設立された。市の非常勤特別職という立場で、これまで様々な面で地域の発展のために尽力いただいた区長の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

同様に、平成2年4月に設立された平田防犯協会についても、より地域に密着した活動を展開すべく、一昨日発展的な解散をし、今後はコミュニティ振興会ごとに防犯協会が設置される。地域の防犯活動に対し、これまで献身的に尽力いただいた関係者の方々に対し、心より感謝申し上げます。

平田地域に関わる課題としては様々なあるが、中山間地域の振興が最大の課題だと思っている。これまで地域協議会でも議論されてきたが、まだ出口には達しておらず、一步でも二歩でも早く出口に近づくべく、意見交換を重ねて課題を整理しながら、在るべき姿を模索していく必要がある。少子化、高齢化の速度は早まろうとも決して遅くはならず、喫緊の課題と認識している。

支所機能については、将来の在るべき姿を見据えながら、そこに向けてどう移り変わりをしていくかが、大きな課題だと思っている。市議会にも「支所の在り方特別委員会」が設置されたところであり、予定では今年度中に、一定の提案がなされるとのことである。

こうした様々な課題がある中での、第1回目の地域協議会となる。今回から新たに、報告、協議の次に、意見交換の時間を設けている。地域課題について、多くのご意見やご提案をいただきたい。

(4) 会議録署名委員の選任

▶ 富樫会長

会議録署名委員として、堀弥志男委員を選任いたします。

(5) 報告

①平成21年度 平田地域協議会活動状況 市長報告時の状況について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶佐藤力委員

市長からは、我々の声を取り上げてもらったと感じている。過疎法が延長されたとのことだが、過疎債、合併特例債を、どのようにまちづくりに活用していくか、平田地域協議会としても検討していくべき。

▶富樫会長

合併特例債について、説明資料を配布してもらいたい。

▶齋藤支所長

合併特例債は、合併した自治体が格差是正のためや、新たな自治体として必要な事業を実施する際に、合併後10年に限り事業費の95%を借り入れできる制度である。事業を実施した自治体に対し、元利償還の70%が普通交付税として交付される。資料については、後日提出する。

▶長谷部委員

買い物への支援についてだが、基礎調査、現状調査などの資料は持っているか。我々経済界としては、実態が分からないと計画が組めないし、参入するにしても多少の利益が確保できないと継続できない。個人情報保護との整理も必要になるが、日常生活の状況を調査するなど、行政による調査が必要なのではないか。

▶齋藤支所長

長谷部委員のご意見のとおり、こうしたことについては需要と供給の関係が大事であるにとらえており、十分調査をして、真に必要な部分は何かを見極めた対応が必要だと思っている。

▶富樫会長

市長に対し、中山間において少子高齢化が進む中、各種課題の解消に向け私たちも行動するので、行政による支援も必要だと強く要望してきた。買い物への支援や安否確認といった課題について、私たちも状況を把握しながら、提案も行い、施策に反映させていかなければならない。

②平成22年度 平田地域に関連する市の予算について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

平田さしこ産業化支援事業について、遊佐では商標登録や特許申請といった動きがあるようだが、平田さしこの事業を進めていくうえで支障は出てこないか。

▶石川地域振興課長

「遊佐刺し子」として商標登録したことは承知している。「平田さしこ」として商品開発や販売を行っていくので、支障はないと理解している。

▶長谷部委員

特許の方が押さえられると動けなくなることもあるので、調査しておく必要がある。

農業関連施設管理運営事業について、めんたま畑の経理内容、処理の仕方などの情報は入っているか。

▶佐藤建設産業課長

市として4月に開催される総会に出席し、質疑の内容は聞いている。

▶長谷部委員

このまま放っておくと、組織の分裂につながる可能性もある。行政としてどこまで踏み込めるかということもあるが、施設は市の所有でもあり、よく調べてもらいたい。

▶齋藤支所長

めんたま畑の施設は「長期かつ独占的利用」として、市議会の議決を経て「ひらた農産物直売所経営組合」に使用を許可している。担当の農政課にも伝え、対応していきたい。

▶佐藤力委員

先日「アイアイひらた」において、障がい者の会による会議が行われたとのことだが、市のバスを使う際に、対応がよくなかったという声があった。足の確保に対し、配慮や支援が必要ではないか。

▶中條市民福祉課長

どういった状況において、どのような説明やお願いをしたのか、担当から話も聞きながら指導や指示を行っていききたい。

▶藤原委員

資源再利用運動事業について、昨年度に事業の対象となった3団体とはどこか。昨年、子どもたちが回収した資源を引き取っていた業者が摘発されたという報道があった。砂越でも、回収した資源の代金を保全会が肩代わりしたと聞いている。

道路除草等活動負担金交付事業について、砂越のコンビニエンスストア前の信号から南平田小学校まで県道の歩道で、雑草が伸びて足に引っかかるなど通学に支障が出ている。市に刈った草の処理を依頼したところ、対応できないとのことで、砂越・砂越緑町コミュニティ振興会で費用の一部を負担した。子どもの通学に関する事なので、除草やその後の処理について配慮いただきたい。

都市・農村農業体験交流事業について、訪問する学校側の負担はどのくらいか。

▶中條市民福祉課長

資源再利用運動事業は、様々な団体が資源ごみを回収した場合、回収した団体に1キロ当たり4円を交付する事業である。こうしたごみを引き取る業者は市が契約した業者であり、この事業で回収したごみが放置されたということは聞いていない。昨年度に事業の対象となった子供会3団体については、確認のうえ後日報告する。

▶佐藤建設産業課長

県道の除草については、道路管理者である県に依頼し作業してもらっている。刈った草の処理について、コミュニティ振興会が費用を負担したことは今日初めて聞いた。行政で支援できないか検討したい。

ファームステイについては、生徒1名につき16,500円、加えて引率者の宿泊代と食料費を負担してもらっている。これとは別に、「ふるさと体験教室」の参加者からは、1名につき1,500円負担してもらっている。学校側の負担は、210名ほどの参加で、約390万円となっている。

▶阿部委員

放課後児童健全育成事業について、4月から田沢小学校に入学した児童の保護者から、放課後に子どもを見てもらえる学童保育のような制度があればありがたいとの話があった。この児童は、現在飛鳥の学童保育に通っているとのことだが、同様の事例が出た場合、これからも飛鳥の学童保育に入るといことになるのか。田沢コミュニティ振興会でも、田沢小学校の近くに学童保育があればいいのではとの話が出ている。

▶中條市民福祉課長

正規の学童保育を開設する場合、一定の児童数が求められる。児童数が少ない地域では、コミュニティセンター等の施設を活用し、地域の方々が子どもたちを見守るといった形もある。田沢地域での学童保育を考えた場合、児童数の関係もあり正規の方式で開設することは難しい。コミュニティ振興会の事業とするなど、地域的な取り組みについても検討をお願いしたい。市全体でもこうした地域が増えていることから、地域との協力関係、送迎の形なども含め検討中である。

▶奥山委員

田沢コミュニティ振興会としても、コミュニティセンターで地域の人から子どもを見てもらうことについて検討したが、今は行政でやったほうが安心できるということとなった。

▶佐藤達也委員

学童保育を開設するために、必要な児童数は何人か。また田沢小学校から飛鳥の学童保育に入るのは、初めての事例か。

▶中條市民福祉課長

人を雇用することや保険のことを考えると、11人程度の児童数がないと運営していくことが難しい。

▶石川地域振興課長

田沢地域から飛鳥の学童保育に通うのは、初めてである。松山地域にも学童保育がないため、地見興屋から飛鳥の学童保育に通っている児童もいる。子育て支援課では、3総合支所に一つずつは学童保育を開設したいとの考え方を持っている。

▶長谷部委員

ほっとふくし券事業、障がい者ほっとふくしサービス事業について、事業の内容に重複するものがあるが、事業として分けなければならないのか。また緊急通報システム運営事業について、平田地域はどのような設置状況になっているか。

鳥海南麓畑地振興対策推進事業について、現在耕作放棄地はどのくらいあるのか。平田町の時から重荷になっていたものであり、地域協議会としても共通課題としての認識が必要である。

▶中條市民福祉課長

ほっとふくし券事業は介護保険制度の中の事業であり、障がい者ほっとふくしサービス事業は障がい者を対象とする事業である。緊急通報システム運営事業は、心臓病や糖尿病など特定の疾患を抱えていることに加え、一定程度の年齢に達しており、症状が急に悪化した時に自力で連絡できない方を対象とした事業である。平田地域における設置数については、資料を持参しておらず分からない。

▶佐藤建設産業課長

鳥海南麓地区には土壌条件の悪いところがあり、市と県とが共同で対策を講じている。耕作放棄地については、資料を持参しておらず分からないので、後日報告する。

▶齋藤支所長

緊急通報システムについては、民生委員と包括支援センターの方々が実態を把握しながら設置しており、充足しているととらえている。

鳥海南麓については、国や県の支援を受けながら、土壌の改良など耕作しやすくするための努力をしているところである。

③平成21年度 コミュニティ振興会の事業実施状況について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶富樫会長

各コミュニティ振興会の委員からも、補足説明をお願いしたい。

▶奥山委員

田沢コミュニティ振興会の課題としては、コミュニティセンターの建物が古いことがあげられる。トイレの改修や駐車場の舗装については市から対応してもらったが、床が揺れるといった、まだ対応が必要な部分もある。また人事の部分で、規約で定めている事務局長が欠員となっている。事業については、参加者が少ない場合もある。

▶阿曾委員

東陽コミュニティ振興会では初年度の事業として、中野俣公民館で実施していた事業、北俣公民館で実施していた事業をすべて計画した。実施してみて、中野俣公民館でやってきた事業については北俣から足を運ばないし、北俣公民館でやってきた事業には中野俣からの参加が少ない。中野俣、北俣という意識の垣根を徐々に低くし、東陽コミュニティ振興会としてみんなが集る事業を展開していきたい。

▶小林委員

郡鏡・山谷コミュニティ振興会では、事業については無理をせず、共通性があるややすいものを統一事業として実施したところ、参加者が多く盛況であった。また統一事業であっても、敬老会や文化祭は、参加しやすくすることと関係者の負担軽減を目的に、会場は別だが同日開催とした。郡鏡地区、山谷地区の独自事業としては、公民館時代のを継続して開催したので、住民としてはあまり違和感を感じることなく、スムーズにコミュニティ振興会へ移行できたと思っている。

課題としては、東陽コミュニティ振興会と同様、山谷地区の独自事業に対しては郡鏡地区からの参加者がなく、逆も同じであった。事業の周知についてはチラシの回覧だが、今年度は相互交流を図るべく工面をしたい。また事業の参加者に男女とも壮年が少なく、この年代の事業への参加を増やす取り組みを行いたい。

▶和根崎委員

檜橋地区と飛鳥地区が一緒になって設立された南平田コミュニティ振興会は、互いの住人を知るということを基本に、以前はそれぞれの公民館で行ってきた活動を、昨年度から一緒になって取り組んだ。「無理をせずに1年間」という互いの考え方があったことから、事業の数は少ないように思う。専門部は九つあるが機能を果たせなかった部もあり、反

省課題として活動を促し、今年度は活発に事業を展開していきたい。

▶佐藤力委員

砂越・砂越緑町コミュニティ振興会の1年目については、総じて良い成果が上がったと思っている。敬老会や文化祭などは会場を別にして開催したが、交流の機会が最大限生かされたことは、参加人数にも表れている。運動会については、今年度から合同で実施することが決まっている。

ただ行政からは、各種事業の実施や事務局などが依頼されてくるため、事務方は大変であり、がんばってもらっている。課題といえば、砂越緑町における消防団の立ち上げであり、団を立ち上げてからの砂越緑町と砂越との連携も重要となってくる。

▶富樫会長

コミュニティ振興会の事務職員と話して感じるのは、防犯協会や社会福祉協議会など新たな事務が増えており、こうした事務については手探りの状態であるため、大変になっているということである。総合支所からは、事務職員に対する指導や助言といった支援を積極的に行ってもらいたい。

④その他

▶石川地域振興課長

(「過疎地域自立促進市町村計画の策定」について資料に沿って説明)

▶佐藤建設産業課長

(「飛鳥水源地の廃止」について資料に沿って説明)

▶長谷部委員

一般家庭に対する、水道料金への影響はないのか。

▶佐藤建設産業課長

水道料金については統一の方向で進めており、平田地域の水道料金は上げる方向で調整が進んでいる。

▶富樫会長

過疎計画の策定に向けては、各コミュニティ振興会や様々な会合においても、ぜひ話し合っていたきたい。コミュニティ振興会から出された意見については、地域協議会でも議論し、過疎計画に反映させたい。

(6) 協議

①平成22年度 平田地域協議会の活動予定について

▶石川地域振興課長 (資料に沿って説明)

▶藤原委員

過疎計画の策定に向けた工程について、政策推進課が地域協議会に説明する前に、平田地域協議会としての意見を提出し、一旦揉まれたものをこの場にかけてといった、ていねいな工程をとった方がいいのではないか。先ほど阿部委員から出された学童保育などについても、過疎計画を策定するにあたり配慮していかなければならないことだと受け止めている。

▶富樫美雪委員

過疎債を活用して実施する事業について、酒田市の事業費はどのくらいの規模を想定しているか。

▶石川地域振興

過疎計画で位置付けられた事業については、国から過疎債による支援を受けられる。予算規模については、該当となる事業を過疎計画にどのくらい盛り込むかということもあるが、全国の過疎地域から上がってきた計画に対し、6年間でどう財源を配分するかという国の方向もあり、現段階ではなんともいえない。

▶齋藤支所長

過疎計画の内容については、平田、八幡、松山それぞれ3地域の考え方があり、それを束ねたものが酒田市の過疎計画となり、市で担当するのが政策推進課である。3地域が別々の考えで始めてしまうと、まとめるのも大変となるので、最初に政策推進課より計画を作っていくための基本的な考えを示し、その後各地域で話し合っ3地域ごとの計画がある程度まとめる。

それを一緒にして、酒田市として3過疎地域をどう発展させていくかという計画にするための調整を行ない、市全体の計画にしていく。平田地域としての考えは示していくが、全体的な見地からの検討も入るといふこともお含みいただきたい。

過疎計画は9月の市議会に諮りたいと考えているが、国のスケジュールも5月に示されるとのことであり日程変更となる可能性もある。ただ、10年前に過疎計画を策定したときの日程を見ても時間は少ない。

▶長谷部委員

過疎の大きな原因ともなっている少子化対策について、平田地域としても議論していかなければならないし、行政としても重要な課題としてとらえてもらいたい。

▶齋藤支所長

今回策定する過疎計画には、ソフト事業が盛り込まれる。対象となる

ソフト事業について、まだ国から考え方が示されていないが、子育てという部分は対象になると思われる。

▶堀委員

人口や世帯の減少については平田町時代から課題であったが、平田地域の現状は把握しているか。各コミュニティ振興会としても、今後必要になってくるデータではないか。

▶石川地域振興課長

平田地域の人口や世帯の推移について、地区単位、コミュニティ振興会単位でまとめている。資料として後日提出する。

(7) 意見交換

①地域課題について

▶奥山委員

中山間部の住民にとって、飛鳥バイパスの完成が待たれるわけだが、時期はいつごろになるか。

▶佐藤建設産業課長

国道345号までの区間の供用開始は、平成22年度中と聞いている。

▶和根崎委員

新しい道路ができることで、小・中学生の通学など住民にとって大きな影響が出てくる。しかし信号機の移設なども含め、知りたい情報について地区に対する説明がない。地区に対する情報提供について要望する。

▶富樫会長

所管課である建設産業課より関係部署に対し、地域協議会でこうした要望があったことを伝えてもらいたい。

子どもの見守り活動に関することだが、平田地域内でも小学生に対する声かけや不審者の出没といった事案が発生している。平成21年度、酒田警察署で事件・事故として取り扱った件数は24件で、内3件が平田地域で発生している。子どもたちは、不審者かどうかの識別ができない。子どもたちの安全確保に向け地域全体で層を厚くして、見守り活動、通学時の安全確保に対するご協力をお願いしたい。

これをもちまして、第1回平田地域協議会を閉会いたします。